

館山市議会議員 森 正一 活動報告(第24号)



発行日：平成29年 4月 21日
発行者：もり正一 後援会(討議資料)
連絡先：館山市八幡277-19
TEL：090-2652-3218
ホームページ：http://www.awanew.com

【プロフィール】

- ・昭和42年5月17日生まれ、49歳
- ・北条小、三中、安房高、東北大学工学部卒
- ・館山市議会議員、現在2期6年目
- ・文教民生委員会副委員長
- ・たてやま21・緑風会会派代表
- ・北条FC代表、館山市サッカー協会幹事

はじめに

平成29年第1回定例会が2月24日から3月23日までの会期で開催されました。行政一般質問では「第三中学校の耐震化について」、「ごみ処理事業に関して」、「公立小中学校、幼稚園等の統廃合に関して」など4項目について質問し、予算審査特別委員会の委員として、当初予算について審議を行いました。また、4月13日には本年第1回臨時議会が開催され、平成29年度館山市一般会計補正予算(第1号)質疑で登壇しましたので、あわせてご報告いたします。

行政一般質問における質問・回答要旨・所感

質問1

第三中学校の耐震化に関して

- ①耐震化の進捗について。
- ②耐震化完了の目標時期について。
- ③有利な財源の確保については、いつ目途がたつのか。より有利な財源確保ができないのであれば、通常の文部科学省の補助財源を活用し、早期に事業を開始すべきではないか。

回答1

- ①耐震化の進捗の状況は、有利な財源の確保に向けた調整を全力で行っているが財源確保には至っていない。
- ②平成29年度中に施設整備の方針を確定できるよう、引き続き努めていく。
- ③现阶段では、有利な財源を確保することを最優先に、国の機関等との協議を進めたいと考えている。

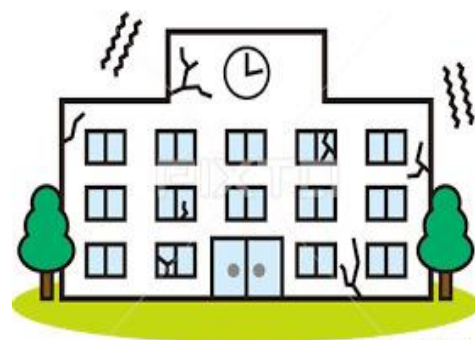
所感

第三中学校の耐震不足が判明してから3年が経過しているにもかかわらず、今回の行政一般質問においても、これまでと同様、「有利な財源の確保に向けた調整を全力で行っている」との回答であり、「全力で」という表現が追加されただけでした。

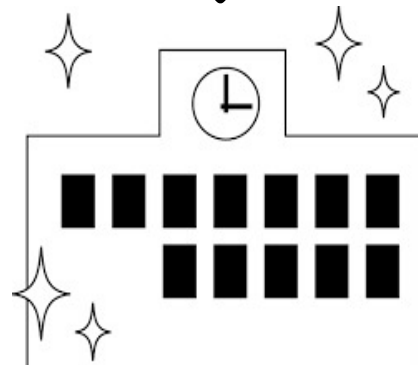
3月中に有利な財源確保の目途が立てば、6月議会での庁舎建設基金条例の改正と合わせ、補正予算を計上して設計に入れるのではないかと期待していましたが、現状では平成30年度中の設計完了も怪しい状況です。再質問に対する市長答弁の中で、いくつもある大型事業の中で、第三中学校の耐震化事業は最優先事項であるという回答が得られたので、その言葉通りの行動を期待するところです。

児童、生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるよう、また、大災害発生時には地域のみなさんが安心して避難所として使用できるよう、一日も早く第三中学校の耐震化を完了することを引き続き強く要望して参ります。

震度6強クラス以上の地震で、崩壊・倒壊する危険性がある



子どもたちに一日も早く安全・安心な学習環境を



質問2

ごみ処理事業に関して

- ①広域の規約改正手続きの進捗は。また、規約改正が完了するのはいつ頃になると見込んでいるのか。
- ②規約改正が完了していない状況において、出野尾にあるごみ焼却施設の大規模改修に関する補助金を受けることは可能なのか。
- ③出野尾にある館山市のごみ処理施設を広域で活用することはできないのか。

回答2

- ①現在、鴨川市、南房総市および鋸南町は、ごみ処理の方針などを議会に説明を行っているところで、規約改正手続きに入る前の段階。構成市町が合意に至れば、3～4ヵ月で知事の許可を受けられる可能性がある。
- ②館山市のごみ処理に関する地域計画を新たに作成すれば、補助金を受けることは可能。
- ③館山市のごみ処理施設を広域で活用することについては考えていない。

所感

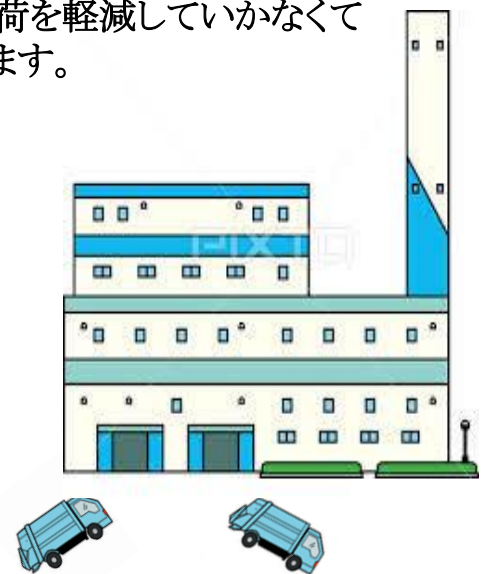
現在、鴨川市議会と鋸南町議会から館山市の広域ごみ処理施設建設事業からの離脱了承の通知が届いており、また、書面による通知はまだですが、南房総市議会も了承したと伺っています。このことから、近いうちに広域の構成市町の合意が得られ、県との事前協議のための書類を整えば、その時点から3～4ヶ月で規約の変更についての知事の許可が出ると思われれます。

市のごみ処理施設は老朽化が著しく、市としては平成33年から大規模改修工事を始めたいと考えていますが、第三中学校の耐震化や新給食センターの建設、船形バイパス事業など、多くの大規模事業が控えており、厳しい財政状況下にあることから、思い通りの事業展開ができなくなる可能性が高いと考えられます。

市は毎年約1億円の予算をかけて施設の延命化を行っており、大規模改修の完了前に施設が使用不能にならないよう、引き続き細やかなメンテナンスを行う必要があります。

そして、私たち市民もごみの分別と減量化を徹底し、施設の負荷を軽減していかななくてはなりません。みなさんのご理解とご協力を心からお願いいたします。

広域ごみ処理施設建設事業からの離脱がほぼ確定しましたが、安房3市1町の広域連携においては、館山市が中心となり、その責任と役割を果たすべきではないでしょうか。広域からごみ処理の依頼があった場合に、OKするのかと尋ねたところ、「今、広域での活用云々の話はできないが、各市町が困っている場合には、お互いに助け合うということで、ケースバイケースで対応する」との答弁でした。ごみ処理に困っている市町にとってはありがたいことであり、厳しい財政状況にある館山市にとっても処理手数料による収入が得られ、お互いにとって大きなメリットがあります。このような広域連携による、歳入増に繋がる事業は今後ますます重要になって来るのではないのでしょうか。



質問3

公立小中学校、幼稚園等の統廃合に関して

- ①「館山市学校再編基本指針」に基づく、学校再編に関する現在の検討状況について。
- ②市内公立幼稚園の統廃合の今後の方向性について。

回答3

- ①平成22年度に市内全地区、全小学校で基本指針の説明会を開催し、その後一部の地区と協議を続けてきた。その結果、富崎小と神戸小が今年度末に閉校し、新たに房南小学校となり、その房南小学校と房南中学校を合わせた小中一貫校「房南学園」が、平成29年4月に開校することになった(現在、地域との協議は行っていない)。
- ②これまで、房南地区、船形地区、九重地区において、幼稚園と保育園のこども園化を実施してきた。今後も、保護者の意向を尊重しながら、各地域の必要な教育・保育の必要量を見定め、こども園化を検討していく。

所感

現在市内には、学校再編を検討する上での基準値である、50人、あるいは90人に満たない学校が4校あり、さらに20年後には、50人に満たない学校が3校、90人に満たない学校が3校となり、小中学校14校中、6校が再編の対象になると予測されています。

また、昨年実施した市民アンケートの集計結果によると、回答者全体のデータでは「教育面、および、財政面の観点から統合すべき」が55%、「地域活力のため、および、教育面の観点から維持すべき」が29%で、「統合すべき」が「維持すべき」の約2倍となっています。そして、世代別、地区別の集計でも、ほぼ同様の結果となっています。

学校の統合に関しては、学校、特に小学校は地域コミュニティの中心的・シンボリックな存在であり、「統合すべき」という意見が多いからといって、機械的に進めるべきではありませんが、学校教育においては、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくことがとても重要であることから、じっくりと時間をかけて地域のみなさんとの協議・検討を重ね、その意向を十分にふまえた上で、子どもたちのことを第1に考えた学校再編を計画・実施していくことが必要ではないでしょうか。

平成29年度予算審査特別委員会における審議について

当初予算に関する審査が3月15日に開催され、私を含む9人の委員により審議が行われました。以前にも書いたように、館山市では9人の議員で委員会を構成し、審査を行っていますが、南房総市のように全議員が審議に加わるべきであり、更に、わずか1日で終わらせるのではなく、君津市のように3日程度かけてじっくりと審議するべきだと思います。予算委員会は1年間の市政のあり方を議論する場であり、すべての重要事項に対して委員と執行部との間で質疑を交わして慎重審議を行わなくてはなりません。どれだけの時間をかけて審議をすれば妥当だと言う基準はありませんが、450ページを超える予算書と100ページ近い説明資料や、自分で調査して準備したその他の参考資料を基にし、過去の予算・決算の資料等との比較も行いながら、執行部と質疑をしていきますので、1日で審議を尽くせるとは到底思えません。私は約30の事業について質問を予定し、1事業だけ他の委員と質問が重なったため、抜かしましたが、他の委員の中には事前に用意した質問の多くをしなかった方がいるように思います。現在、議会改革を推進している館山市においては、この部分も改革すべきではないでしょうか。

以下に平成29年度の予算規模、および、これまでに議会活動を通して要望・提案してきたことの中で、実現できたものの一例をご紹介します。

【一般会計および特別会計の予算規模】

各会計の当初予算額、市債残高は以下の通りです(特別会計は国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、下水道事業会計の合計)。

一般会計 → 175億7,000万円(前年比14億6,000万円、7.7%の減)

特別会計 → 150億8,905万2千円(前年比2億2,872万7千円、1.5%の増)

市債残高 → 約180億円(前年比4億5千万円、12.4%の減、市民一人当たり約37.8万円の借金)

【幼稚園における預かり保育】

平成28年第3回定例会の行政一般質問で要望した、『預かり保育』が実現しました。朝は7時半から教育開始時間まで、午後は教育時間終了から6時までの預かりが可能となりました。今年度は北条幼稚園のみの実施ですが、今後は他の幼稚園での導入も求めて参ります。

【学童クラブの定員拡大】

昨年度、北条学童クラブでは4月頭書からの待機児童がかなり出ることが3月時点で判明し、予算委員会において待機児童の解消を求めたところ、早急に対応してもらいました。今年度は希望者全員が学童クラブに入れるよう、定員の拡大が図られました。

【たてやま健康ポイント事業】

平成27年第3回定例会の行政一般質問で取り上げた『健康マイレージ事業』が実施されることになりました。健康に対する関心を高め、健康的な生活習慣のきっかけづくりや維持・定着を目指します。“けんしん”、“しゅうかん”、“イベント”に関するポイントをそれぞれ2ポイント、合計6ポイントを集めると抽選で素敵なプレゼントが当たります。ポイントカード(右)とチラシは、市役所玄関ホール、コミュニティセンター2階健康課前に設置していますので、ぜひご参加ください。



平成29年一般会計補正予算(第1号)についての質疑

4月13日に開催された平成29年第1回館山市議会臨時会において、平成29年度一般会計補正予算(第1号)に関する質疑で登壇しました。今回の補正は、地方創生推進交付金における、平成29年度事業にかかわる交付決定が3月中になされたことによるもので、「恋人の聖地事業」、「渚の駅」たてやまの機能強化・施設改修事業」など、4つの事業について質問しましたので、主なものについてご報告いたします。

【恋人の聖地事業】

本事業は「恋人の聖地」を活用し交流人口の増加を図るため、市内外へのPRや市内民間事業者によるビジネスモデルに繋げるための専門人材の招聘等を行うもので、印刷製本費72万3千円、講師謝礼50万円について質問したところ、市内の観光名所や聖地スポットに加え、デートスポットやパワースポット、「恋人の聖地」パスポートの優待店舗などの情報をまとめた恋人の聖地ガイドブックを1万部印刷し、市の観光や市内事業者のPR用に活用する。講師としては、恋人の聖地プロジェクトを主催しているNPO法人地域活性化支援センターの方や、同プロジェクトに参画している旅行代理店の方などを招き、「恋人の聖地」のブランド力や地域資源を活用した商品化・ビジネス化の取組をテーマとした情報交換会を開催する予定とのこと。



【“渚の駅”たてやま 機能強化・施設改修事業】

事業の詳細について質問したところ、Web上で建物内を360度パノラマで見渡すことができる「グーグルインドアビュー」、今話題の「仮想現実体験(館山の海)」などの導入による機能強化と、老朽化した施設外壁・屋根を改修し、名誉駅長「さかなクン」がデザインのイラストの専用フィルムを壁面に貼り付け、「さかなクン」を前面に出した外装として、全国にある同種施設との差別化を図ることで、「渚の駅」たてやまの魅力向上による交流人口の拡大を実現し、関連グッズの売り上げ増加による施設の自主財源確保に繋がりたいとのこと。

所感

当該事業に関する今回の補正額は9,620万円で、当初予算計上分と合わせると総額約1億5,600万円となりますが、事業費の約7割が国の地方創生推進交付金の活用によるものとなっています。財政状況の厳しい館山市では、このような補助財源の活用をもっと進めていく努力が重要です。

おわりに

4月で二期目の任期の前半が終了し、この5月からは任期の後半に入ります。初心を忘れず、安心・安全に暮らしていける館山市の実現を目指し、市民に寄り添った議員活動を実践していきたいと考えています。これからも、皆様のご意見・ご要望を市政に反映してまいりますので、どのようなことでも遠慮なくお申し付けください。